

第〇回 日本小児科学会学術集会 2027（予定）

ORIGINAL RESEARCH / 探索的横断研究

保護者の受診前情報源と 小児の受診行動 #8000・生成AIに着目して

岡本 賢

愛育病院 小児科 / AMPL Inc.

受診前の情報源は、受診行動を左右する。

- 01 保護者は受診の前に、多様な情報源を参照して判断している。

- 02 小児救急電話相談（#8000）や生成AIの利用が、近年急速に拡大している。

- 03 しかし、情報源の種類と実際の受診行動（要否判断・タイミング）の関連は、十分に解明されていない。

OBJECTIVE / 目的

受診前情報源の利用実態を記述し、
情報源と受診行動の適切性との
関連を探索的に明らかにする。

METHODS / 方法

研究デザイン

デザイン

DESIGN

単施設・横断研究（無記名自記式質問紙）

対象

PARTICIPANTS

愛育病院 小児科外来を受診した患児の保護者

期間

PERIOD

2026年6月～（データ収集 進行中）

主要評価

PRIMARY OUTCOME

受診前に利用した情報源と、受診の適切性・緊急度との
関連

受診前に参照しうる情報源

Public

#8000

小児救急電話相談

AI

生成AI

ChatGPT 等の対話型AI

Search

Web検索

検索エンジン・医療メディア

Social

SNS

X・Instagram 等

Personal

家族・知人

身近な経験者への相談

Clinical

かかりつけ医

日頃の主治医・小児科

2026年6月より調査を開始。解析結果は2027年の本学会にて報告予定。

データ収集中

情報源の構成比（構成イメージ・解析前）



岡本 賢

情報源 × 受診の適切性

情報源	利用割合	緊急度との関連
#8000	解析中	解析中
生成AI	解析中	解析中
Web検索	解析中	解析中
かかりつけ医	解析中	解析中

想定される考察

- 01 情報源の信頼性と、受診行動の質には関連がある可能性。

- 02 生成AIは受診前支援の新たな手段になり得る一方、不正確な情報のリスクを併せ持つ。

- 03 #8000等の公的相談の役割を、あらためて評価する材料となる。

本研究の限界

- 01 単施設・横断デザインのため、因果関係は示せない。

- 02 情報源の利用は自己申告に基づき、想起バイアスを含む。

- 03 受診の緊急度は季節・流行により変動する。

CONCLUSION / 結語

**受診前の情報源を理解することが、
適切な受診支援の第一歩になる。**

ACKNOWLEDGEMENTS / 謝辞

調査にご協力いただき愛育病院 小児科の
皆様、保護者の皆様に深謝いたします。

本研究は探索的パイロット研究として、2026年6月より進行中。

結果は2027年 日本小児科学会学術集会にて報告予定。

岡本 賢 / 愛育病院 小児科 ・ AMPL Inc. / amplinc.com